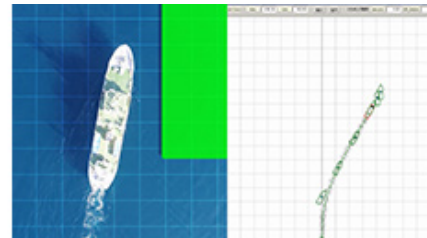
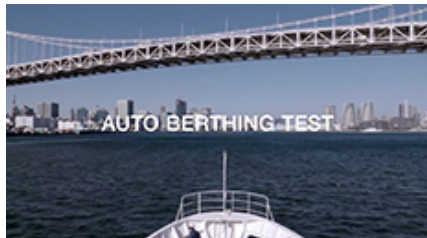


商船三井、自動離着棧の実証実験の様子を公開

Edited By LogisticsToday On 2019/07/11

三井E&S、商船三井、東京海洋大学、三井造船昭島研究所は11日、国土交通省の自動運航船実証事業に採択された「自動離着棧実証プロジェクト」として、2018年12月から19年2月にかけて東京海洋大学の汐路丸で実証試験を行ったと発表した。



実証実験では、海上に設置された仮想棧橋に54回の自動着棧を行い、有用なデータを得ることに成功したという。19年度は大型内航フェリーで実証実験を計画しており、今回の実験解析結果をもとに、操船制御システムの開発と試験方法の検討を重ねて実験を行う。

次回の実験では、岸壁に船体を寄せる際のコースの取り方や船速・距離の余裕をもった制御によって船員が危険を感じない操船制御の実現、大型フェリーの操縦性能を考慮した適切な操船制御の実現、自動離着棧の操船制御中に急激な変化が生じた際の継続・中断の明確な基準づくり——などを課題として取り組むという。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/346457>

Copyright © 2019 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.